

平成19年3月1日

東京電力株式会社のデータ改ざんに関する中間報告  
について

柏崎市長 会 田 洋

本日、東京電力株式会社からデータ改ざんに関する調査・原因究明の結果および再発防止策についての報告があった。

報告内容の詳細についてはこれから吟味するが、1月31日明らかになった多数の改ざんに加えて、法律に基づいて報告しなければならない原子炉自動停止を隠蔽していたなど3件の不正が新たに明らかになり、改めて驚きを禁じ得ず、誠に遺憾である。

特に、平成4年2月、1号機の原子炉が自動停止したにもかかわらず、発電所の安全に大きな責任を有する発電部長の判断によりその事実を報告しなかったことは、発電所の安全確保上あってはならない悪質なものであり、改めて当時の東京電力の企業倫理・企業体質が疑われるものである。

また、こうした不正を見抜けなかった国の検査体制にも問題があると改めて認識するものである。

いずれにしても、今後とも調査が続けられることから、この際、今回の総点検を通してこのような不正を余すことなく洗い出し、膿を出し切るとともに、不正が起こる原因を徹底的に究明し、万全の発電所安全運転管理体制を築き上げることを重ねて求める。